

## 羅針盤ゼミナールとは

羅針盤ゼミナールは2006年に横浜市緑区で開講した個人塾です。東日本大震災や計画停電の影響もあり、2012年から拠点を千葉市に移して「**進学塾らしんばん**」として活動し、2017年に現在の名称に変更いたしました。しかし、2020年に新型コロナウイルス感染症の世界的流行とそれに伴う緊急事態宣言を受け、集団指導を自粛し、さらに万延防止等重点措置の発令や2度目の緊急事態宣言の発令を受け、感染症予防対策の観点から対面の個別指導を1日3名までと限定し、さらに都内なから通塾されていた生徒を対象にマンツーマンオンライン授業に切り替え、実績を出してまいりました。2021年より本部を横浜市に戻し、難関私立大学受験生を対象とした**日本史専門講座「北条塾」**を主宰しております。同講座は進学塾らしんばん時代からの当塾が誇る人気講座です。現在、中学生対象の社会科学講座も問合せを多く受けておりますので開講を検討中です。

開校以来、「文系受験生の駆け込み寺」として短期間で満足いく得点力をつけるべく**知識に裏付けされた思考・考察力と記述力を重視**した受験指導を行っております。2018年度には**高3の9月に入塾した生徒の日本史の偏差値を1月までに56から70にまで上げました**。この生徒の日本史は9月に予備校で受験したプレセンター試験では21点でしたが、本人の努力もあり2019年1月19日のセンター試験で96点を取ることができました。そして本命の早稲田大学文学部に無事現役合格いたしました。羅針盤ゼミナールは**Face to Face**を掲げ、一人ひとりじっくり向き合う時間を取っています。過去には**東京大学**や**東京工業大学**に現役合格した生徒もいます。**募集定員は毎年5名前後**です。それだけ一人ひとりにじっくりと時間をかけられるゆえ、**不合格者ゼロ**、かつ第一志望校合格実績が高いのです。

## 生徒主演の共演授業

羅針盤ゼミナールの授業はオンライン講座であっても**生徒が主役**。生徒たちが自分の頭で考え、答えを導きだすことを大切にします。講師が一方的に解説するだけの一方通行の授業は行いません。粘り強く考え解法を工夫する、なぜそうなるのか講師が発問し、時には議論することもあります。このように学ぶ姿勢を変えるだけで、正解したときの喜びは大きくなりますし、自信が付き、記憶にも強く残ります。

また、生徒がお客さんにならないよう「**なぜ、どうして**」をしっかりと思考する時間を設け、リズムよく授業が進むよう「**対話コミュニケーション授業**」を実践しております。講師と生徒がしっかりと対話しながら授業を行うことを、私達は「**生徒主演の共演授業**」と呼んでいます。暗記型の授業では、思考・考察・作業・記述を重視するいわゆる応用問題には対処できません。そして詰め込みだけでは、勉強がつまらなくなるだけでなく、テストにおける得点源が限定的になってしまいます。



## 羅針盤ゼミナールの指導理念

### (1) 「依存型」から「自走型」への転換

羅針盤ゼミナールの指導理念は、依存型から自走型への転換です。これはオンライン授業の「北条塾」も同じです。分からないから塾に入る、分からないから質問するのは自然なことです。しかし、正解を大人が瞬時に教えてしまえば、生徒たちの思考力は向上せず学力は上がりません。ややもすれば依存型の甘えを助長させることとなります。羅針盤ゼミナールの考える自走型の生徒とは、与えられた公式や知識あるいはヒントを使って自らの頭で思考して正解にたどり着く生徒をいいます。大切なのは今の学力ではなく学習意欲です。意欲のないところに学力は育たないと考えるからです。

### (2) 「学力」を問題にする前に、「学習意欲」を付ける

いわゆる「ゆとり教育」の失敗により、日本の子どもたちの「学力低下」は深刻であると世間で言われています。しかし、それよりも深刻なのは「学習意欲の欠如」です。民間教育機関の調査によると、3年に1度行われているPISA（→OECDが行う学習到達度調査）によると日本の子どもたちの白紙の解答の多さは際立っています。「学力」は学習意欲のないところには表れません。親や教師に命令されて嫌々やる勉強は、学習ではなくただの「作業」です。一方、学習意欲に満ちた子どもたちの学力はみるみるうちに向上していきます。それゆえ羅針盤ゼミナールでは、学習意欲を付けることを第一義と考えます。大学受験を目指す日本史専門講座「北条塾」の受講生には釈迦に説法かもしれません。どうぞお気になさらないでください。

### (3) 「塾」は伝統産業

塾はいわば伝統産業です。明治時代以降に今日のような学校制度がつけられるまで、歴史上、わが国の教育の中心は塾でした。塾の歴史は古く平安時代にさかのぼります。しかし、この時代の塾は有力な貴族の子弟を対象にしたもので、庶民向けの塾は数えるほどしかありません。塾が隆盛を極めたのは江戸時代に入ってからです。広瀬淡窓の「咸宜園（かんぎえん）」、シーボルトの「鳴滝塾（なるたきじゅく）」、吉田松陰の「松下村塾（しょうかそんじゅく）」、緒方洪庵の「適塾（てきじゅく）」など、江戸時代には多くの私塾が存在しました。このほかに、庶民が通った寺子屋や幕府や諸藩が設置した教育機関もありました。そのため江戸時代の教育は世界最高峰だったと言われており、識字率は世界のトップクラスでした。日本がいち早く近代化を成し遂げられた理由は、この識字率の高さにあるといわれています。識字率は国民の知的水準を示すモノサシであり、それを支えていたのが塾だったのです。

### (4) 「地域主義（地域密着）」という「塾の原点」を見つめ直す

江戸時代に勃興した塾や寺子屋の多くはみな地域に根ざして活動していました。寺子屋は学術的には「手習い塾」ともいわれ、知識人（武士や僧など）が、その知識と人柄を慕って集まってきた人々を対象に、自宅の一室を使って教える個人経営の小規模な学習施設でした。江戸時代の後期には、全国どの地域でも歩いて通えるところにこうした学習施設があったと言われています。羅針盤ゼミナールは地域主義（地域密着）を大切につつ、江戸時代の私塾のように全国の当塾のノウハウを必要とする生徒にそれを提供できるようにオンライン指導を導入しました。少子高齢社会の今日、次代を担う人材を世に送り出すことは、塾の使命であり、教育業に携わる者の責務だと考えます。



羅針盤は、羅針儀やコンパスとも呼ばれ、船や航空機などで方位を知るのに用いられる器具です。11世紀の中国宋王朝（北宋）で実用化されたものがイスラム世界を経由し、西方に伝播したといわれています。そして、14世紀初頭にイタリアで改良されると大航海時代を大きく前進させ、ヨーロッパ人の海外進出を促しました。このことから羅針盤は比喩として、**進むべき方向性を指し示してくれる存在**として認識されています。私たちは、常に正しく子どもたちの進むべき道を指し示すべく「羅針盤」を塾の名前に入れました。

※2017(平成29)年までは「**進学塾らしんばん**」という塾名でした。今後、羅針盤ゼミナールでは**中学生対象の講座**には原点回帰の意味合いを含めて「**進学塾らしんばん**」の名称を使っております。

※オンライン授業は無料で使えるZoomアプリを使用します。

## Zoomのインストールから授業開始まで

## ノートパソコンの使用を推奨します

- (1) Zoom公式サイトよりZoomアプリをインストールする
- (2) ダウンロードしてインストールを開始する
- (3) インストール完了後、起動画面から【サインアップは無料です】をクリックしてアカウントを作成する

\*\*\* Zoomアプリを既にインストール済の方はここから\*\*\*

### (4) 事前面談・授業時間に受講者(生徒)が行うこと

お約束の時間になりましたら①【**新規ミーティング**】を開く、②通話画面から【**参加者**】をクリック、③【**招待**】をクリックして「ミーティングに参加するよう相手に招待」のウィンドウを開く、④【**メール**】をクリックし、【**デフォルトメール**】を選び【**hojo@rashimban.jp**】を入力して送信する、⑤北條が送られてきたURLをクリックすると待機画面(待合室)に【北條礼時】の名前が表示されますので、名前にカーソルを合わせて【**許可する**】を選択

他にも、IDとパスワードをLINEでこちらから送信し、それを入力いただくだけで容易に授業や面談に参加できる方法も手軽で便利です。

### (5) 事前面談・授業開始

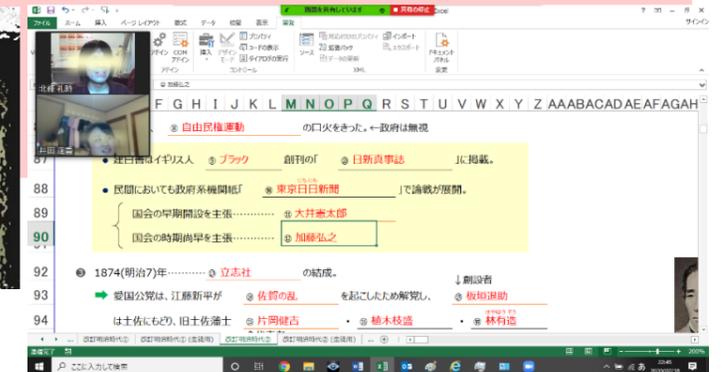
回線がつながり次第、事前面談や授業が始まります。

※講師(北條)側から招待するという逆パターンもできます。その際は(4)の手順を北條が行いますので送信先の【メールアドレス】を教えてください。お約束時間の**5分前にメールを送ります**。確認次第、【ミーティング参加】してください。



講師側から見た授業風景  
(画面共有なしの時)

プライバシー保護のため顔にはモザイク処理を施しております。



講師側から見た授業風景  
(画面共有ありの時)

# 大学受験 日本史専門

## 日本史偏差値70を目指して猛特訓

羅針盤ゼミナールが誇る オンライン日本史専門講座

# 北条塾

## 日本史専門講座 北条塾

大学受験において**日本史の偏差値70**を目指し、豊富な知識と記述力によって、他の受験生を日本史得点で大きく引き離し、これを「武器」に受験を戦い抜くことを目的としたオンライン講座です。国公立から難関・中堅私大まで、大学受験に必要な知識・記述の指導、資料(史料)活用を指導します。

近年の入試に求められているのは、「知識の丸暗記」ではなく「分析・思考力」です。中学校社会科および高等学校地歴・公民科の教員免許を持ち日本史の専門的知識を有する**歴史検定日本史1級講師**が、歴史的事柄の因果関係を明確にした「解説」と「歴史を理解」することを最重点において講義を行います。一人ひとりの志望校(受験校)・レベルに対応するため**授業はマンツーマン(1対1)**で行います。

※近隣に在住の生徒は塾に通塾によるマンツーマン指導を受けることもできます。



## 知識のベースは通史授業と学部別歴史観

知識のベースとなる通史授業は、受験生からの入塾生は「中世史→近現代史→古代史」の順番で、高校2年生以下の生徒は古代史から時代順に授業を行います。難関私大や共通テストで満点を取るレベルを目指すため、解説授業(基本コース)のほか演習授業(追加コース)もご選択いただけます。

もともと、商学部・経済学部志望者と文学部や法学部志願者では歴史の捉え方が異なります。そこで、日本史専門講座「北条塾」では**志望学部・学科別の歴史観**で授業を行い、知識量や記述の型、着眼点に差を設けています。高校3年生から受験日本史の勉強を始める方は、約10カ月で受験校の合格レベルまで日本史力を完成させなければなりません。必死に勉強しないと日本史を「武器」に入試を勝ち抜くことは難しくなってまいります。

勉強情報を発信中！！



羅針盤ゼミナール事務局 @Rashimban\_  
 羅針盤ゼミナール教務アカウント @Rashimban2  
 日本史専門講座「北条塾」アカウント @Hojojuku



## 自慢のオリジナル教材

日本史専門講座「北条塾」の**オリジナル教材**は、共通テストはもちろん難関私大や国公立二次試験で90点以上の高得点を取ることを前提に毎年微改訂をしております。例えば、慶應義塾大や明治大・立教大の入試問題は山川出版社の教科書や日本史B用語集をベースに作成されていますが、用語集で「①」(→掲載されている教科書が少数)がつくマニアックな用語でも、実際に慶應義塾大学や早稲田大学で出題されたものはオリジナル教材に反映させています。それゆえ「何をどこまで覚えたいのか」と多くの生徒が悩む問題をあっさり解決します。授業で使用するオリジナル教材の内容さえ定着させられれば、模試でも入試でも90点以上とることができます。これほど**効果的に偏差値アップ**がはかれる教材は他にはないという自負がございます。

また北条塾ならではの**記述指導**にも定評があります。志望校に記述問題がある場合は、その志望校の過去問を使い、設問に対して使わなければならないキーワードを教え、**記述の「型」**を覚えていただけます。それにより減点のない記述解答ができるようになるでしょう。

このように、大学受験の日本史は、**暗記一辺倒では太刀打ちできません**。偏差値70を目指して日本史を勝負科目にする羅針盤ゼミナールは近隣に住む生徒だけでなく、オンラインを通じて全国の受験生のお役に立とうと、コロナ禍に設置したコースがオンラインによる日本史専門講座「北条塾」です。日本史受験生の人生を変える最高の出会いになれるよう、しっかり務めを果たさせていただきます。ご期待ください。



## 日本史を暗記教科だと思いませんか？

「日本史は暗記科目だから覚えるだけ」プロフェッショナルは、このような無責任な発言に賛成しません。大学受験において**用語の丸暗記で取れる得点はせいぜい30~40点**ぐらいです。**深い知識に裏付けされた記述力や考察力、場合によっては計算力や読解力**、これら全ての力が難関大学の受験日本史には必要なのです。**受験日本史において「暗記」とは、問題を解くための前提条件に過ぎません**。与えられる問いに答えるためには、最低限の知識を持っていることに加えて、それらの知識を効果的に使い、論理的な思考を身につける必要があります。それはもちろん、試験前の一夜漬けや、受験直前の付け焼刃な詰め込みで身に付けられるものではありません。実際の大学入試の各学部の平均点が70点前後なのは、多くの受験生の受験対策の甘さを物語っているともいえます。日本史専門講座「北条塾」の受講生には「満点狙いの90点以上」が当たり前と感じていただけるまで、しっかり指導したいと思います。

